

プラザサロン「プロにうかがうビデオの撮り方」

2001年8月25日(土) 厚木市情報プラザ 会議室にて
話題提供者 福島豊彦さん(マルチメディア・ボランティア)
司会 林 葉子(マルチメディア・ボランティア)

(マルボラ 林) こんにちは。マルチメディアボランティアの林と申します。本日は、プラザサロンによろしくお会いいただきありがとうございます。プラザサロンは、厚木市情報プラザでの新たな出会いの場ということで、厚木市のご協力を得て、マルチメディアボランティアが主催、運営しております。

青の名札を付けた者が、マルチメディアボランティアです。今日も何人か、手伝いに来てくれます。ちょっと手をあげてくださいませんか？ 今日、この者たちが、お手伝いをさせていただきます。

今日は、「プロに伺うビデオの撮り方」ということで、マルチメディアボランティアの福島豊彦さんに、話題提供者としてお話いただきます。

プラザサロンは、参加者のレベルを問わずに、「ああ、こんなこともできるのか、やってみたいな」ということが、一つでも得て帰っていただければと思いますので、どんどんわからないことは、恥ずかしがらずに「他の人もわからないのではないかもしれない」と思って、質問してください結構です。積極的な発言、参加を期待しております。

デジタルカメラで写真を撮らせていただきます。カメラで撮ったものは、後ほど、厚木市のホームページや、今、お手元にご覧いただけます、マルチメディアボランティアが制作しております「プラザニュース」にも、もしかしたら載るかもしれません。そのあたりで、お写真が載ることを許可していただけたらと思います。「どうしても困る」という方、今いろいろ、プライバシーの問題もありますので、挙手していただけたら、配慮させていただきます。

お手元のアンケートにもぜひご協力ください。予定があって、中座される方も、アンケートを書いていただいて、受付の者に渡していただけたらと思います。

今日は、「プロが使う CCD カメラでのビデオの撮り方」を学びます。デジタルビデオカメラがいろいろありますが、「そのあたりに興味があったのに・・・」という方がもしいらっしゃったら、手をあげていただけますか？ お時間が許せば、後ほど、「デジタルビデオ編集」ということでも、サロン終了後、お時間をいただいて、デモの用意がありますので、そのあたりも楽しみにしていただけたらと思います。

今日の流れを簡単に説明させていただきます。まず、お手元の資料に沿って30分程、福島さんからパワーポイントというプレゼンテーションソフトを使いながら、ビデオの撮り方の要点をご説明いただきます。その後皆さんに、実際にカメラに触っていただきまして、お手元の資料にありますような撮影の仕方を実際にやっていただきます。その後、実際に撮ったビデオを見ながら、皆さんでお話し、福島さんのコメントをいただきながら、復習を進めていただければと考えております。

福島さんのご紹介を少しさせていただきます。福島さんから丁寧な紹介文をいただきまして、それを読ませていただきます。

「38年間、精密機器の会社に勤務していました。設計、技術畑が多く、自動車部品の開発で、一旦定年を迎えました。ビデオは最初、趣味でしたが、

自分の技にチャレンジし、実習、研修を重ねていくうちに、ようやく皆さんに見えていただけるような商品作りができるようになりました。今までに携わって完成させた作品は 300 本にも渡り、作品の多くは結婚式のビデオに携わっています。

カメラマンとして学び、感じてきたことは、ビデオに表現したものを見て、多くの人が感動し、楽しみ、再度、「また見たい」と感じられるものでなくてはならない。映像は心の表現。そのためには、撮影者のシナリオ、技、見る人のリアクションまでを想定して撮影に取り掛かることが肝要だと思っております。」

という言葉を事前にいただきました。では、福島さんにバトンタッチして、「ビデオの撮り方」のポイントをご説明いただきます。福島さん、よろしくをお願いします。

(福島) ただいま、紹介いただきました、マルボラの福島です。よろしくをお願いします。

「ビデオを一本まとめるにも、機材、シナリオ、撮影、編集、まとめの問題といろいろあります。今日のテキストらしきものは、定年を迎えてから、ある学校にパソコンを 3 ヶ月ほど習得に行ったのですが、そのときに、「趣味でやっているなら、ビデオのまとめをやってみたら」と言われ作ったものを、使わせていただきます。

皆さんが、聞きたいところからちょっと外れているかもしれませんが、主に、「操作」、「カメラワーク」を主体に、話させていただきます。

「私ならこれをやってみたい」というのがありましたら、話しているときに、テキストの「撮影受付」の数字をメモ書きをしていただいて、後で皆さんの番号、名称を受け付けますので、それをしていただく。ということで、心づもりをしていただけたらと思います。

パワーポイントによるデモ

ビデオ撮りの目的

いろいろ、皆さんも運動会、講演会、結婚式とビデオを撮られると思いますが、主役は誰なのか、息子さんであり、お孫さんであり、新郎新婦であり、先生であり、そういった主役をメインにまとめることが大切だと思います。

この作品のどこが重要で、どう撮るべきか、重要なところをぼかすと、絵全体が甘くなるというか、だらだらと終わってしまうので、強調するところは強調するようにしたほうがいいと思います。

この作品はどんな方が見られるのか、生徒さんがみられるのか、或いは家族が見るのか、友人・知人が見るのかというようなことも考えられるのがいいと思います。

皆さんの動きをカメラに置き換えてとる。新郎新婦がドアを開けてスポットを浴びて入場する。みんながそこを注目する。ということは、撮り逃さないほうがいいと思います。花火など、ドーンと上がったなら、皆さんそちらを向くと思いますが、そこを逃さないように、花火を入れるとか、或いは見ている人の表情を入れるとか、そういう皆さんの眼をカメラに置き換える。

撮影に入る前に、自分で企画を十分に練られたほうがいいと思います。運動会であれば、何の種目に出るのか、どこで構えていると、直線やカーブを撮れるかとか、天気のこと、会場のことを前もって企画、立案されたほうが、いいと思います。

企画は制作の原点である。

つまらないところを長く撮ったり、本当に見たい

ところが消えていたりとか、そういう時間配分も考慮して立案しましょう。

要点をメモ。事前調査をして、メモを撮ってそれを反映するとか、自分のイメージを整理しておく、アフレコに使う曲はどんなものがあるかなど、そういったイメージもまとめておかれるといいと思います。

起承転結。すぐ「承」「転」に入りたがるのですが、「起」の部分、オープニングに工夫をしてみよう。まとめにもひと工夫することにより、まとまった作品になると思います。

カット割台本。各カットの時間の配分を立てて、例えば、「60分で撮ってくれ」と言われ、ある部分だけ30分も40分も撮ってしまうと、大切なところが短くなってしまいますので、時間配分を立てておかれるといいと思います。

タイトル、写真。結婚式でしたら、2歳や3歳の時の写真などをインサートカットでちょっと入れるとか、イラストで花とか、タイトルの文字を入れたりとか、シナリオの中でもひと工夫すると思います。

映像と音声のバランスを取る。大事な足音が入っていないとか、やけにBGMが強すぎるとかは、非常に見ていて疲れるものです。ゆっくりしたところに速いテンポの曲を入れたりするのもよくないと思います。

次は、「構図のヒント」に入っていきます。「遠近」「左右対象の構図」「放射の構図」、写す人の好みも入ります。私も「斜めの構図」をよく使います。立体感を出すのに、効果的です。向こうに対して

手前はどうかだったかということに対比させるにも。

和やかな雰囲気を表すには、「丸型の構図」などがいいと思います。「三角形の構図」もあります。

ここからは「画面サイズ」ということで、「ロングショット」、よく夕陽が落ちたときに使われます。「ミディアムショット」、スチール写真でもよく使われます。ただビデオの場合、前から最後までほとんど画面サイズに変化がないというのめんどくさい。アップ、ロングショットの中で、船の中の人を、ズームで寄ってアップにしたり。

映されるときは、必ず最後の画面サイズを覚えておかれるといい。後で編集すれば別ですが、この機械は時系列的につなぎ撮りをしますので、「ロング」「ロング」と続いたら、「アップ」したり、「ミディアム」にしたり、ずっとロングは撮りこぼしはないと思うけど、あまり興味が湧かない。アップばかりでも疲れます。画面サイズの配分に心がけたらいいと思います。

アップショット。花を撮ったり、動物を撮ったり、表情をほしいところで。

結婚式で新婦がお母さんに手紙を読んだりしますと、お母さんが泣くんだりされますが、そこを入れるとか、そういうのもいいかと思います。

人物サイズについて。フルショット。旅行でバックのホテルの様子とか、公園をバックにしたり、みんなが入って背景も見える。

フルフィギュア。これは、一人を全身入れる。

ニー・ショット。膝から上くらい。ミディアムショットのサイズにふさわしい。

ウエストショット。ここでも撮りやすい画面ではないかと思います。

バスト・ショット。バストから上。

アップショット。帽子がおもしろいときなど。これもフィックス（静止画面）で入れるのもいいかと思えます。

アップは短く入れる。ズームなど寄った時は短く入れることを意識されるのがいいかと思われま

ス。ニュースでは、小泉首相の目が狙われると思えますが、まつげの1本もわかる画面構成だと、長くは使えない。もちろん、フィックスで、短く。

人数によって、ワン・ショット、ツー・ショット、スリーショット。これから上は、フル・ショットと言います。

カメラワーク、カメラを動かす、止める、そういったやり方に入ります。

フィックス。1本のテープをまとめると六割くらいはフィックス＝静止画が主体となります。長時間は使わないほうがいい。長くても5分くらい。あとは、お客さんのほうに振るとか、会場を入れるとか、公園などですと、相当長くフィックスでもたせませんが、運動会などでは5分も使わないと思えます。

パンニング。2つほど重要な点があり、往復パンニングはやらない。タブーとされています。最初と最後にフィックスを必ず入れる。

2～3秒フィックスを入れて、パンニングをはじめ、そこでズームを効かせるのもいいかと思

います。そして最後もフィックスで切る。

フィックスが決まりますと、絵もしまってくると思えます。最初と最後にフィックスを入れる。パンニングは使わない。ズームを併用してもいいでしょう。そのときは、体の苦しいほうから撮る。楽な方から撮ると、最後はどうしてもぶれたりしますので、パンニングをするときは、身体の苦しいほうから楽なほうに戻していく。戻したときに、ピントが狂わないように、途中動いているときに、オートの設定ですとピントはあいますが、マニュアルを使っていると、止まってからピントを合わせず、動いているときに合わせて最後を決めちゃう。人間の眼は動いているときは甘いものです。ですから、最初はもちろん、ピントを合わせてスタートさせます。どんどん近場で花なら花を入れておわるときは、花までのピントを読んでおいて、距離を縮めていく。動いているときに、最後にピントの合った状態で終ることを心がけるといいと思えます。

ティルティング。下から上へ。パンアップ、パンダウン。花火など、パンアップで。パンダウンですと、歌っている人の履物など、全身を映しておいて、パンダウンさせてみる。比較的早くカメラを動かすワークのことをティルティングと言います。

ズームイン。これはよく使われると思えます。全体の中の1点を強調する使い方です。海の中をしけているとき、最初は海のしけているところを出して、ここに船があるということで、グーっとよる。全体を見せたあと、重要なところを見せる。これもあらかじめ寄ったところのピントを合わせておくのがいいと思えます。民放やNHKでも、寄ったらピントがボケたということもあります。カ

メリハをやらないで、急ぐこともあるので、ニュースなどは寄った後に補正していますが、できれば寄る前に合わせて、一回リハーサルをやり、ピントがよく合うと思います。

ズームアップ。今の逆。運動会でお嬢さんが踊っている。最初、お嬢さんの踊りを撮りながら、では、どういう構成になっているのか、輪がいくつあるのか、他の人に見せたいというとき、「こういう配列になっていたんだな」とわかるような1点と全体の背景をわかるときに使う方法です。

フェードイン。今も2回か3回やりましたが、徐々に画面を出していく。最初画面を暗くしておき、だんだん絞りを開けていって、適正な絞りまで明るさをあげていくことです。物事が始まるときの最初に使うといい。

フェードアウト。何かを撮り終わりましたというとき、画面を暗くして、見えなくしていく。

このフェードインとフェードアウトは、時間的な流れを作るときに、よく使う手法です。フェードアウトして、フェードインして、違う場面になるとき。時間的な経過があったときに入れます。

フォーカスイン。水溜りやネオンや、イヤリングのキラキラを徐々にピントを合わせていく。花などをインサートカットで入れるのですが、ボケた花からピントを合わせる。

逆にフォーカスアウト。ピントを徐々にぼかして終わりにしていきます。フェードアウトと似ていますが、どうしてもフェードアウトが使えないときに、フォーカスアウトを使います。

2つか3つカメラがあればフォーカスアウトも生きますが、1台のカメラですと、あまり使われなと思います。特に人物は、フォーカスインやフォーカスアウトはタブーというか、あまり使われません。顔をぼかすのは失礼にもあたりますから。

これがカット割台本です。学校の一日を65分でもとめた場合、時間をこのように当てたわけです。最初ブルー送りを20秒から30秒入れます。皆さんの登校風景を3分間、1時間目の授業を15分いいところを撮ります。休憩はだんらんを入れるとか、昼食、下校、落としているところは、フェードアウト、フェードインでやったほうがいいと思います。

下がBGM、アフレコで、朝は元気のいい曲、帰りはなだらかなゆっくりした曲もいいと思います。

重要なことは必ず、音が終わってから絵が終る。3分間で絵を入れた場合、実際は2分30秒であったり、絵の時間のほうが音の時間より短い。最初遅れて絵が出る。絵が出てから音が出ます。音が下がってから絵が終る。よくテレビの番組も気をつけてみていただくと、必ず、絵が出てから音が出る。音が消えてから絵が消える。これが基本です。アフレコの時間を調節すると同時に、アフレコのレベルを変えない。音声レベルは一定にしたほうが、いい作品になると思います。

カット割台本を作ってから撮られると、時間配分がよくなる。

機材は参考にならないかもしれませんが、備品の予備はお持ちになったほうがいい。

「撮影後のまとめ」ですが、ビデオが完成した段階で、自分の素直な感想をまとめておく。これも

一週間、10日経つと、自分の思っていた記憶がなくなるので、完成したとき、無理してでもまとめておけば、次の作品に生かされると思います。

テキストの最後にまとめをつけておきました。ビデオ撮り10か条。20でも30でもあげられますが、大事なところはここだろう。と挙げさせていただきました。1、事前の調査を充分行う。これがビデオ撮りの五割以上を占めるのではないかと思います。会場はどうか、時間帯はどうか、行くまでの車の道はどうか、人は何人くらいか、雨が降ったらどうするかなど、事前の調査を充分されることが、いい作品づくりになると思います。

2、撮影したものをどんな方がみられるか、見る方のことも考えて、撮影場所に早く行って、明るさ、バランス、手順、場所、リハーサルを試みるのもいいかと思えます。

撮影にはヤマ場が何回かある。「トイレにいったときに、大事な場面を取り逃がす」なんてことのないように、ヤマを逃さないようにする。

カメラぶれは作品の低下につながる。

三脚など、建物などにあてて撮るといい。

ハンディでとるときは、ほっぺたにつけて動かさないようにしています。カメラブレを防いでいます。身体を落として広く構える。

カメラをやたらにふりまわさない。

フィックスを多めにする。

パンなどで、振り回し方が速すぎるときがある。

音量は最後まで一定に。

カメラポジションは高さに気をつける。子どもさんなどは脚をつけて撮る。高さには訳があります。犯人などは上から見下ろして構えます。新婦などは、低めに構えてパンアップし、見上げる、下から撮ると効果としていいので、高さに気をつけるのもいいかと思えます。

花なども、目線にあわせ、カメラを下げて撮る。

人の撮ったビデオ作品に関心を持って、比較検討する。自分はいいと思っても、人の撮った作品を比べると、勉強になることもありますので、人の撮った作品を比較されるのもいいかと思えます。

完成したときに、評価・感想を書いておく。

次はこういうことにチャレンジしたいとメモされておけば、将来遭遇したときに、「あれを入れよう」とか、「あそこが面白かったのもう一回使ってみよう」とか、感想を書いておけば作品が上達していくと思います。

実技編

<ここで、撮影の希望を受け付けました。>

ビデオの操作を説明します。つなぎ撮りになっていますから、スイッチを入れるとあかりがつかまず。入れなければ止まっています。

これが絞りです。開放、絞り。これがズームです。

これがピントです。一番手前。これが無限大です。

皆さん映すときには、一回寄ってピントを合わせて、正規の位置に戻してから映し始めていただくといいかと思えます。

カメラ撮影と試写会

質疑応答

Q1 . パンニングですが、往復がいけないというのは、なぜでしょう？

A . どうしても続けてとりたいというとき、同じサイズで戻さずに、ひと工夫されたほうがいいと思います。同じサイズで戻るのはよくない。そこにおもしろい動物がいれば、そこにグーッとよることで、往復パンから逃れられることがあります。スピーチが長くて、言葉を落とせないときなど、よく聞いている人にグーッと寄って、違うコースで戻すということが、私でもあります。

Q2 . みんなカメラで写すとハレーションを起こ

すことがありますよね。そういうときは、マニュアルの絞りで修正するのでしょうか？

A . いいことをお聞きになりました。例えば、手前がものすごく明るい。ただ写したいのは、奥の方だという場合、マニュアルで、その方の顔がはっきりわかるくらい、まわりはハレーションを起こしていてもしょうがないから、その奥の方に合わせて撮られるのがいいと思います。逆もあると思います。周りが犠牲になりますが。

Q 3 . アフレコを入れるときは、ビデオで撮ると会場の音が入ってしましますが、その場合は、音声を殺しておかなくてはいけないのですか？

A . アフレコを入れると、現場音は消えます。注意していただきたいのは、アフレコを入れると、現場の残しておきたい言葉が切れてしまうので、テープのカウントを見ておくとか、あの人がマッチをつけた、退場した、そこまで入れたいという場合、絵で確認するとかしないと、必要な現場音が消えてしまうことがあります。

Q 4 . 6 ページの 3 3 ですが、「カット割台本」とありますが、「ブルー送り」とは何でしょう？

A . テープを最初起動させたときは、スクラッチノイズが多いものです。テープの巻き始め、巻き終わりは、青い紙などを使います。今のデジタルビデオには、ブルー送りの機能があります。ハレーションを起こさない程度に、青い紙を使うこともいいでしょう。

Q 5 . 文中で文字を入れるときの注意は？

A . カメラに文字を打ち込むデジタルビデオもあります。ローマ字入力で漢字変換をするものも出ています。紙に書いて映されるのもいいかと思えます。

(マルボラ 林) ここで一応解散にします。アンケートをボランティアに渡してください。もしお時間が許す方は、お残りください。デジタルビデオ編集についてデモを行います。

(マルボラ 林) これから何をやるかを一応説明します。今日お持ちしたのは、ソニーVA10 という比較的新しいノートパソコンで、購入時についていた「Movie Shaker」というソフトがあります。これは短いビデオクリップを編集するものなのですが、我が家でテレビの番組から甲子園とコンサートを IEEE1394 = iLink と呼ばれるもので、テレビの映像はアナログですが、それをデジタル変換してこちらのパソコンに取り込みました。それを数秒ずつ編集したり効果をつけたりしたものです。映像編集は私も初めてでしたが、そのソフトでしたら簡単に 1、2 時間で習得して作ったものです。マルボラの田村さんに紹介していただきます。

(マルボラ 田村) デジタルビデオを取り込むとき、形式を変えなくてははいけません。デジタルビデオには、出力端子がついています。これはパソコンに取り込むとか、デジタルでデータをやりとりするための端子です。アナログビデオはダビングするとどんどん劣化しますが、デジタルは一切劣化がない。

ただしデジタルで取り込むときも、元々の画像が悪ければどうしようもありません。

パソコンで画像を取り込むといいように思えますが、現在の技術ですと、非常に大きなハードディスクの空き容量が必要になります。だいたい 3 時間のビデオ (avi) を取り込むと、約 100 メガバイト食ってしまいます。1 時間 2 時間だと、ハードディスクの半分、5 ギガ、6 ギガ食ってしまうという状態になってしまいます。

最近はどうしているかということ、専用ソフトがあ

り、独自の圧縮技術で編集をして、それほど容量を食わないような形をして戻してやるという方式になっています。

パソコンに取り込めば劣化は一切ありません。ただし、雑誌の付録のビデオCDなどは、多少、コマ落ちとか、画質は落ちます。

MPEGとかの技術は、パソコンでも見られるように、画像を小さくする規格を使っています。

アナログの場合、ビデオ編集をするとき、一方ダビングしながらそのまま下へ持っていくという形をとりますが、デジタルの場合、元の画像データに字を入れるとすると、字は別、音も別、つまり3つの領域でやっていきます。つまり元データは変わらない。元データにかぶせた場合でやってみる。よければ合成する。編集する場合、元データを一切いじっていないので、劣化はない。そのかわり、そういうことをやらなくてはいけないので、パソコンのパワーが弱いと、コマ落ちしたり、音が抜けたりします。つまり3つの仕事を同時平行して行うことになります。

素人でもできます。例えば星グルグル。こんな形になる。これにテキストを入れます。フォントの設定、大きさを指定して、これでOK。自由な字が使えます。

もしパソコンでデジタルビデオ編集をすると思ったら、最低でペンティアム の800メガで、ハードディスクは最低10ギガ。40、50ギガが望ましい。メモリーとしては125が最低。多ければ多いほどいい。できれば、1ギガヘルツ以上のパソコンで、256のメモリーとかいうものが必要になってきます。ここで編集したものは、再度linkを通して、ビデオカメラに戻してやれば、そのままデジタルビデオとして観れます。それを今度は1回だけダビングして普通のVHSにして

やると、非常にきれいな1回撮りしたものと同じようなきれいなテープができます。ですので、これからなさる方は、簡単ではあるが、まだまだマシンの力が弱いということで、思っていることが100%できるかどうかはわからない。マシンの力次第。これは標準でついているソフトですが、例えば「Video Studio」とかの編集ソフトがいっぱい出ていますので、こちらを使われるともっともっと楽になります。どれがいいかとよく聞かれますが、いちばんいいのは自分が使いやすいもの、友達でも誰でも、よく使っている人と同じものを使うと、すぐに聞けるということがありますので、そのあたりで検討されるのがいいと思います。基本になるのは、福島さんがなさっていただいたもので、それが素人でも多少楽にできるというのが、こういうパソコン編集とってもらえばいいと思います。

(マルボラ 林) これで、今日のプログラムは終わりです。アンケートをお願いします。最後までありがとうございました。